

# 榊原病院

## Monthly

### Vol.68

### 2024.March

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である  
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院  
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

## 院長

鬼塚 俊明(おにつか としあき)

### 略歴

1991年 九州大学医学部卒、九州大学精神科神経科入局  
2000年 米国ハーバード大学医学部精神科研究員  
2004年 九州大学病院精神科神経科助教  
2008年 九州大学病院精神科神経科講師  
2015年 九州大学大学院医学研究院精神病態医学(精神科神経科)准教授  
2021年 九州大学大学院医学研究院神経画像解析学教授  
2023年 国立病院機構榊原病院特命副院長を経て、院長就任



**病院理念** この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

## 榊原病院に赴任して

業務班長 小林 隆弘

昨年の4月に津市内の三重中央医療センターより赴任しました事務部企画課の小林と申します。

私事になりますが1992年に初めて採用された病院が榊原病院であり、その後三重県内の病院を転々として30年ぶりに榊原病院に帰ってまいりました。

当時はまだ現在の病棟では無くA病棟～E病棟までの5つの病棟があり、1995年に現在の病棟に建て替えられ、旧病棟から現在の病棟に引越を行ったことを覚えています。

新しい病棟でフレッシュであった新人時代を過ごし、その後お互いに年を重ねてきたはずでしたが、30年ぶりに見た病棟はリフォーム工事を経て生まれ変わり、新築当時の様に迎え入れてくれました。

生まれ変わった病棟と共に働くことで、私自身も新人時代の気持ちを思い出し、あっという間の一年間でした。

さて、企画課の業務としては主に工事の発注や物品の調達業務があります。

病棟のリフォーム工事も終わりしばらくは大きな工事はありませんが、来年度以降には病院で使用しているPCを一新し、当院ではまだ導入されていない電子カルテシステムやPACS（医療画像管理システム）等のIT整備を行っていく予定です。

当院でも情報セキュリティを高め安全に医療情報を扱うために院内の体制作りを進めていく必要があります。

榊原病院が医療DX（デジタルトランスフォーメーション）という新しい時代に対応していくため、患者様により良い医療を提供するために事務部一同は医療者を支えて頑張っています。

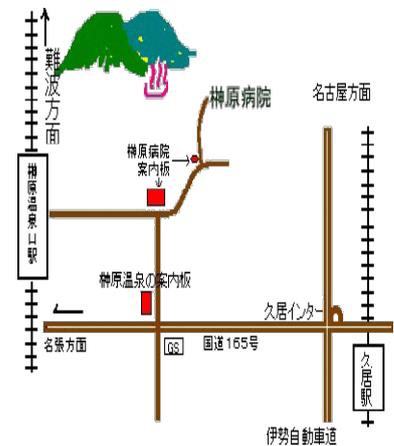
患者様と直接触れ合うことの少ない部署ではございますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 診療科

一般精神科  
アルコール・薬物依存症  
専門外来  
こころのリスク外来

## 病床数 175床

精神科病棟 157床  
医療観察法 18床  
強度行動障害ユニット



電車・バス/近鉄久居駅下車 三交バス  
(車庫前行き)約30分

電車・バス/

自動車/ 久居インターより約20分

電車・バス/  
マイクロバス/久居駅より直通バス(約25分)



## 地域医療連携室だより

### 〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

## ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和6年2月までに全症例は147例となりました。新規導入は1月は2例、2月は0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



## 認知症医療、こころのリスク外来

### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



## デイ・ケア案内



デイケアは南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。

皆さまそれぞれの目標に合わせて、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したり、リフレッシュしたりと、活動に取り組んでおられます。

デイケアを利用される方は、1日あたり10人～20人です。10代から80代まで、幅広い年代の方々が一緒に過ごしておられます。3月後半から4月にかけて、桜の開花に合わせて散歩に行く機会が増えます。体力に自信のない方は、ぜひ院内散歩にご参加ください。病院の中でもたくさんきれいなお花を楽しめます。他には運動、ヨガ、レクリエーションゲーム、コミュニケーション、SST、カラオケ、アート等様々なプログラムがあり、それぞれの方のニーズに合わせて活動いただいています。

病院のホームページや、外来に月間プログラムがありますので、どうぞご覧ください。



みんなで作ったカレンダー用の飾り、春らんまんです。



こちらはメンバーが作られたおひなさまです。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



## 栄養コラム

### 糖質について正しく理解しましょう

『糖質制限』や『糖質カット』という言葉を目にする機会が増えたように思います。比較的手軽なダイエット方法として取り上げられたり、スイーツでも糖質オフの商品が増えています。では、痩せるためには糖質をなるべく取らないようにすればよいのでしょうか？

糖質とは穀類、いも類、砂糖などの主成分であり、エネルギー源として最も重要な栄養素です。糖質が不足すると、脳が栄養不足となってイライラしたり、栄養バランスが崩れたり、食物繊維が不足して便秘になりやすくなります。糖質は体にとって必要不可欠です。とはいえ、現代の食生活においてごはんやパン、麺、砂糖たっぷりのお菓子や飲料など糖質過多になりやすいのも事実です。ダイエットのために極端な糖質制限(主食を全く食べないなど)はせず、過剰摂取にならないように心がけたいですね。